

# 環研センターNEWS

第11号

## イバラトミヨサミット

12月19日(日)  
at 新庄市「ゆめりあ」



「自然豊かな山形県」でも、多くの生物が絶滅危惧種に選定されるなど、近年「生態系の劣化現象」が見られるようになってきました。このたび、新庄市の「ゆめりあ」において、最上地方の現状を眺めながら、イバラトミヨを通して今後の保全のあり方を考える「イバラトミヨサミット」を開催しました。

基調報告「最上に残された貴重な自然」では、最上地方に生息・生育する絶滅危惧種を中心に、昆虫の生活上不可欠な関係にある植物など、一つの種が他の種との共存関係にある事例や、一箇所に多種の絶滅危惧種が集中して生息・生育している場所もわずかながら残っていること、この2～30年間に絶滅した箇所などについて報告がありました。



左: 山形昆虫同好会 永幡 嘉之氏  
右: 山形県野生植物調査研究会 沢 和浩氏



左から  
山形県自然環境現況調査会会員 大類 貞夫氏  
山形県ふるさと保全指導員 星川 靖捷氏  
大富イバラトミヨを守る会 鈴木 正明氏  
高木イバラトミヨ保存会 藤沢 忠一郎氏

パネルディスカッション「山形のハリザッコを考える」では、県内各地で「イバラトミヨ」の保全に関わっている方々をパネラーに迎え、最上の自然特性について概観しながら、イバラトミヨの生息実態、保全の取組の現状と課題、今後の保全のあり方について討論しました。

確実に保全していくためには、地域住民・専門家・自治体等の連携が必要であり、行政には資金面での支援も期待するとの意見が出されました。また、このような活動は、継続していくこと、地域が熱い思いを持ち続けること、次代を担う子どもたちも活動に参加させ、子ども時代に体験させることが重要であることなどを確認しました。

また新庄市立北辰小学校の子どもたちによる活動発表「北辰小からの発信！ 守ろう指首野川」も行われ、子どもたちが、日頃学校で取り組んでいるイバラトミヨの学習について発表しました。自分たちが調べて分かったことを劇やクイズ形式で発表したり、きれいな指首野川を今後も守っていくためにどんなことができるのかなどを子どもたちの言葉で伝えました。



# やまがた環境スクール実験講座《大気コース》 地球環境問題をのぞいてみよう

12 / 4  
(土)



酸性雨ってどうして降るの？炭酸ガス(二酸化炭素)ってどんなもの？  
…実験を通して、わたしたちの生活が大気に及ぼす影響に関心を持ち、日常生活を見直すきっかけを作るため、実験講座を開催しました。



入浴剤を使って発生するガスを集め、水やお湯への溶けやすさ、重さなどの性質を調べます



自動車の排気ガスをビニール袋に採取して……



ガス検知管を使い、排気ガスの成分(二酸化炭素・二酸化窒素)を測ります。



排気ガスを水に溶かしてバックテストでpHを測ってみると…あっ！色が変わったぞ！

## やまがた環境スクール クラフト教室 オリジナルリース作り

12 / 18  
(土)

クリスマス前に行われた「オリジナルリース」作り。子供たちも保護者の方も、身近な自然の素材を使い、自分だけのすてきなリースを作ることができました。



やまぶどう、あけびなどのつるで作ったベースに杉やモミ、ヒバなどの葉やハーブをつけていきます。



松ぼっくり、ドングリ、南天などの木の実やリボンなどを飾り付けていきます。

できあがった作品と一緒にハイポーズ！



## ほっとNEWS!

「さくらんぼ環境 ISO ってなあに？」  
～やまがた環境スクールワークショップ開催  
東根市教育委員会と東根市が独自に認証して取り組んでいる学校版 ISO「さくらんぼ環境 ISO」を取り上げ、学校や子供達の取組等を学び、今後の環境保全活動への取組を考えます。  
開催日時：平成 17 年 2 月 5 日(土)13 時～

第 2 回自然環境学習を考える交流会  
学校における自然系の環境学習を推進する上での課題討論。取組事例の発表。  
開催日時：平成 17 年 2 月 26 日(土)13 時

どちらも開催会場：環境科学研究センター  
申込・問い合わせ 0237-52-3124



## 環境す・語録

「楽しいこと。楽しくないとやっている方も参加する方もおもしろくなくて続きません。楽しいと継続性に発展する。それから、楽しいと理解しようとする。そして身に付く。」

水土里ネットいなば 佐藤友二氏。

「食と環境教育」交流会にて。

活動する上で必要な3つのこと、その1。